



FIWA マンスリー・セミナー講演より 人生を通じての資産運用 資産形成と活用の簡単な方法

講演： 岡本 和久
レポーター： 赤堀 薫里

今日は、人生の中でのいろいろな局面での資産運用についてお話します。人生を通じての資産運用で世代に共通の目的は、お金の面では、どのように経済的束縛を最小化していくか。心という意味では、幸福感をいかに最大化していくか。この二つに集約されてくるかと思えます。経済的束縛の最小化と幸福感の最大化、これが資産運用だけではなく、人生そのものの目的だと思えます。



「神よ、変えることのできない事柄については冷静に受け入れる恵みを、変えるべき事柄については変える勇気を、そしてそれら二つを見分ける知恵をわれらに与えたまえ。」米国の神学者、ライオンホルド・ニーバー(1892～1971)の言葉です。変えることができるということは、自分でコントロールできます。変えられないことは、コントロールできません。資産運用において自分でコントロールできることは、資産配分、リスクとコスト。コントロールできないことはリターンです。逆にいえば、コントロールできることをきちんとやった結果として、それまでの行為の成績として出てくるのがリターンということです。

投機と投資は大きく違います。投機は偶然性に賭けることです。結果にほとんど法則性がなく、結果をコントロールすることができない。投資は、資金を経済活動に投げること。経済活動は人間がしていることなので、若干、結果に法則性があるし、完璧ではないけれど、ある程度、結果をコントロールする方法もあります。

投資の中でも、短期投資は株価を対象にして売買で儲けようとするものです。一方、長期投資は企業を対象にして、それを保有して、企業が成長していくに従い自分の資産も増えていくというものです。さらに、資産運用とは、個別銘柄の投資ではなくて、資産全体をいかに管理していくか。だから、英語ではアセット・マネジメントというのです。資産全体を管理していく。

資産運用は資産形成と資産活用に分かれます。資産形成は就労中の人リタイア後のために経済基盤を準備しようというもの。資産活用は収入よりも支出の方が恒常的に大きくなった人、多く





FIWA 通信「インベストライフ」

はリタイア後ということになります。資産を運用しながら取り崩していく方法です。どちらも対象はあくまでもポートフォリオ。個別銘柄が上がった、下がったということは、二義的な意味しかない。全体をいかに上手く管理していくのか、これが資産運用です。

短期投資の不都合な真実を知るべきです。株価は、実体を反映する単なる影であるということが一つ。もう一つは、流通市場はマイナスサムの世界であるということです。株価は影であり、かつ流通市場は付加価値を生む場所ではない。誰かが儲ければ、その分を誰かが売ってしまっているということです。一番大事なことは、将来の自分は今の自分が支えるという一言に尽きると思います。

資産活用の場合、ある程度資産を形成して、定年退職を迎えて、いかに今持っている資産を運用しながら滞空飛行時間を伸ばしていくというのが課題となります。つまり、どう取り崩していくのかということになります。その際、強い力となるのが本当に信頼できるプロのアドバイザーという伴走者です。長期投資の長旅では3つの悪魔が出てきます。最初に登場するのが無知の悪魔。次が恐怖の悪魔。3番目が欲望の悪魔。これに打ち勝ちながらいきます。

本当に良いお金のアドバイスは、あくまでもライフプランに基づいて、その人の資産、負債、収入、支出、全てを視野に入れ、それを人生通じてどう管理していくかというアドバイスを続けていくのが本来の仕事です。つまり、きちんとしたライフプランを相談者と作り、それに沿ったお金の対策を助言するということです。何が値上がりしそうとか、みんなが何を買っているかなどとは違うのです。不適切なアドバイスは、非常に大きな損失を生むものです。例えば、ライフプランと整合性のないアセットアロケーションを組んでしまう。例えば、非課税口座で買えば安く買える商品を課税口座で買ってしまふ。リスク許容度を越えた投資対象の選択。長期投資に不適切な銘柄選択。リターンに報われないリスクを取る。コストの高い投資対象の選択。不必要な回転売買と銘柄の入れ替え。相場の乱高下に心が乱されて投資家が、投資方針と異なる行動をとってしまう。これも非常に多いのですが、一時的な暴落局面に遭遇すると、せつかく始めたイデコや積立 NISA を止めてしまふ。そのような不適切なアドバイスがもたらす運用上のマイナス効果はたくさんありますし、また、その結果、大きな運用上のマイナス効果が発生しています。

アドバイザーとは本来それだけで一つの職業です。主要国ではアドバイザーというものが、独立した職業として確立されるように動き出しています。日本で欠けていると思うことは、一つは投資方針書の作成をしていない。2番目はプロのアドバイザーがいない。プロのアドバイザーがいて、相談者と膝をつき合わせて、彼らの事情をよく聞いて、彼らのライフプランに合ったような投資方針書をきちんと作り、それに基づいて投資をしてもらうというのが本来のあるべき姿なのだと思います。講演では、資産形成の基礎編、応用編、資産活用編、バリュースト平均法についての解説。最後に、英国や米国の現状の説明とともに、本当のプロの信頼できるアドバイザーという伴走者の必要性を説かれました。